

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果の反映の考え方について

1 効果検証結果の概要

『第2期坂東市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の効果検証において、数値目標であるK P I（重要業績評価指標）の達成状況を確認したところ、次のような状況が明らかとなりました。

- ・地域経済や人流に関する分野（基本目標1及び2）は概ね好調であったこと。
- ・少子化対策や生活環境の分野（基本目標3及び4）が良好ではなかったこと。
- ・K P Iにおいて、第2期総合戦略策定の時点では妥当性があったものの現時点ではそれを欠くものや、より望ましい指標が考えられるものが一部で見られたこと。

2 第3期総合戦略策定に際し考慮した事項

上記の効果検証結果を受け、『第3期坂東市まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定するに際し、次のような点に留意しました。

(1) 施策分野の厚み付け

効果検証において弱みの見られた分野において、より多くの施策を掲げるよう厚み付けを行いました。

具体的には、第3期総合戦略の基本目標1において取り組む施策を10分野とし、他の基本目標よりも多くの施策を配置することで、より重点的な取り組みが行われるよう配慮しました。

(2) K P Iの改善

施策の継続性や長期間での効果の比較も視野に入れ、第3期総合戦略のK P I設定においても第2期総合戦略で掲げたK P Iを可能な限り踏まえることとしましたが、主に次の点において効果検証結果に留意しました。

- ・「住宅の着工件数」については、第2期では全ての種類の住宅について計測していたところ、第3期ではより定住に繋がるの深い戸建ての住宅に絞って計測するよう変更しました。
- ・「マタニティ・ファミリークラス参加率」について、1回当たり定員の増加により見かけの参加率が大幅に低下するなど、施策分野の状況を俯瞰する指標として取り扱いが難しい面があったことから、今回の検討において除外しました。